

2026年度 清泉大学

短期大学部 こども学科

一般選抜〈個別試験方式〉A日程・社会人入試B日程・帰国生入試B日程
〈訓練生〉保育士養成科入試

「国語」

*試験終了後、この問題用紙は回収いたします。

第1問

問1 次のア～オの文の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ア 審査員にコクヒョウウされる。
- イ トクメイで告発する。
- ウ 意見の異なる人をハイセキする。
- エ 過ちをサトす。
- オ 勧誘がワズラわしい。

問2 次のア～オの文の傍線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- ア 巾着袋に入れる。
- イ 対戦相手に翻弄される。
- ウ 金策に奔走する。
- エ 大勝利を羨む。
- オ 甘い言葉で唆す。

問3 次の熟語の対義語として最も適当なものを後の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

「恥辱」

- ① 豪勢
- ② 栄転
- ③ 精進
- ④ 名誉
- ⑤ 成功

問4 次の熟語の類義語として最も適当なものを後の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

「拔群」

- ① 良質 ② 傑出 ③ 唯一 ④ 周到 ⑤ 明晰めいせき

問5 次の①～⑤のうちから尊敬語として適切でないものを一つ選び、番号で答えなさい。

- ① ご存じである ② お受け取りになる ③ ご在宅する ④ お召しになる ⑤ くださる

問6 「器用な才能を持っているだけで立派とは言えない人物」を意味する故事成語を次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 鷄鳴狗盜けいめいことう ② 臥薪嘗胆がしんしょうたん ③ 画竜点睛がりゅうてんせい ④ 合従連衡がつしゅうれんこう ⑤ 朝三暮四ちようさんぼし

問7 次の①～⑤の四字熟語のうちから正しく表記されているものを一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 不益流行 ② 芸飲馬食 ③ 意気投号 ④ 有銘無実 ⑤ 眼光紙背

問8 次の文には含まれない品詞を後の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

安くてきれいな容器を五つは用意したいのです。

- ① 動詞 ② 形容詞 ③ 形容動詞 ④ 副詞 ⑤ 助動詞

第2問

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の観点から公表していません

著作権の観点から公表していません

著作権の観点から公表していません

著作権の観点から公表していません

(中井智也 「数学を生み出す脳」による)

注1 対数目盛：広い範囲の正の値を扱う際に桁数に基づいて値を表すことができる非線形なスケール。

注2 頭頂間溝：視覚の制御や眼球運動などを司つかさどると考えられている脳の部位。

注3 射：ある数学的構造をもつ数学的対象から別の数学的対象へ、その数学的構造をそのまま移動すること。

問1 空欄（ア）～（ウ）に入る言葉として最も適当なものを次の①～⑦のうちから一つずつ選び、番号で答えなさい。

- ① あるいは
- ② さらに
- ③ ただし
- ④ すなわち
- ⑤ たとえば
- ⑥ ところで
- ⑦ なぜなら

問2 傍線部A「パターンや構造」としてキース・デブリンやリン・ステイーンが言及していないものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 数值的で算術であつかえる選挙での投票行動。
- ② 高度な数学を研究してはじめて到達できる観念。
- ③ 数値に還元できないであろう動物の体表の文様。
- ④ 太陽系の天体が描いている天空での軌道。
- ⑤ 自然の空間や人間の想像力にも求められるもの。

問3 破線で囲った段落に関する説明として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 直前にあるスチュワート・シャピロによる定義を、読者がイメージしやすい具体例を引用して説き、直後の記述へつないでいる。
- ② 直前にあるキース・デブリンからスチュワート・シャピロまで議論されてきた定義を、西欧社会で好まれるゲームを引用して説き、直後の記述へつないでいる。
- ③ 直前にあるリン・ステイーンとスチュワート・シャピロによる定義を、西欧の数学と縁の深いチェスを引用して説明し、直後で始まる新たな議論へつないでいる。
- ④ 直前にあるスチュワート・シャピロの主張を、シャピロが依拠したチェスになぞらえて解説し、直後で始まる新たな議論へつないでいる。
- ⑤ 直前にあるリン・ステイーンとウォルター・ワーウィック・ソーヤーとスチュワート・シャピロによる主張を、西欧の数学と縁の深いチェスを引用して説明し、直後に展開する筆者自身の見解へつないでいる。

問4 空欄 **B** に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 哲学的思考ができる
- ② 言葉をあつかえる
- ③ 図形の対称性を理解できる
- ④ 空間的配置を認識できる
- ⑤ 方程式を解ける

問5 傍線部C「ない」とあるが、これと意味・用法が同じものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① その行為は意味がない。
- ② その映画はおもしろくない。
- ③ 部屋の片付けをしない。
- ④ 誠に申しわけないことをした。
- ⑤ 泥でよごれてきたない。

問6 空欄 **D** に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 有理化
- ② 抽象化
- ③ 絶対化
- ④ 細分化
- ⑤ 標準化

問7 文章の内容と合致しないものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 計算を習い始めたばかりの子供は数え上げを利用するが、計算に習熟すると次第に意味記憶に基づいた方法を用いる。
- ② 言語の文法処理に関わるとされる脳の部位の活動は数式の文法的複雑さに応じて大きくなると認知神経科学は報告する。
- ③ リン・ステインによると、応用数学はパターンを使いながら、パターンに適合する自然現象を説明して予測する。
- ④ 赤ちゃんも備えているヒトのパターン認知能力は、原始的な他の動物と異なり、非常に複雑で高度であると言える。
- ⑤ 代数学の概念である群を使えば、結晶の形や方程式の解の関係性、親族の婚姻関係までも記述することができる。

第3問

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の観点から公表していません

著作権の観点から公表していません

著作権の観点から公表していません

著作権の観点から公表していません

(くどうれいん 「スノードームの捨てかた」による)

注1 ほとんどの物を捨てることと決めた断捨離：みわこは自室を整理しようとしていた。

注2 あの版画を守っていたような：ある版画に施された額装にみわこは感銘を受けたことがあり、それもあって「雲画堂」を知っていた。

問1 傍線部(a)・(b)の本文中における意味として最も適当なものを次の各群の①～⑤のうちから一つずつ選び、番号で答えなさい。

(a) やるせなく

- ① 悲しみを振り切って
- ② 他に手段がなく切ない思いで
- ③ 努めて明るいう調で
- ④ 好転を全く期待せず
- ⑤ 疲労を隠しきれず

(b) 肩をすくませた

- ① 合意のうえ納得した
- ② よろこんで深く感謝した
- ③ 照れて恥ずかしく感じた
- ④ 困難を解決して安心した
- ⑤ いっそう悲しくなった

問2 空欄(ア)～(ウ)に入る言葉として最も適当なものを次の①～⑦のうちから一つずつ選び、番号で答えなさい。

- ① あっさり
- ② ぐんと
- ③ たまたま
- ④ とことん
- ⑤ なるべく
- ⑥ しんみり
- ⑦ やがて

問3 傍線部A「祖父の趣味は油絵だった」とあるが、祖父が描いた油絵の説明として**適当でないもの**を次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 時間があれば取り組むほど愛好し、祖父の気持ちを穏やかにしていた。
- ② 描いてきた作品を飾りたいとか世間に認められたいとかいう欲はなかった。
- ③ 長い年月を通じてだんだん筆さばきが磨かれていったわけではない。
- ④ 家族は油絵という趣味を歓迎しておらず、作品の扱いに困っていた。
- ⑤ 小学生だったみわこにとつてもよろこんで飾るような絵ではなかった。

問4 空欄 B に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 独創的
- ② 理想的
- ③ 保守的
- ④ 立体的
- ⑤ 普遍的

問5 傍線部C「一枚のちぎり絵」の説明として**適当でないもの**を次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① みわこから見てもさほど芸術性があるとは思えなかったものの、かわいらしかった。
- ② 祖父の思い出の一つであることもあって、みわこは捨てようとは全く思わなかった。
- ③ 画材屋の店員も具体的にどこが良いかを指摘して、お世辞でなく、認めてくれた。
- ④ 画材屋の店員は作品として重厚感を与えるため、マットを太めに取るように勧めた。
- ⑤ 何となく安っぽい印象をぬぐって、すごい絵に見えるような額装をみわこは望んだ。

問6 空欄 D に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① どこか落ち着かない
- ② 畏怖の念がわいてくる
- ③ 長居は遠慮したくなる
- ④ よそよそしさを感じる
- ⑤ とても居心地がいい

問7 文章の内容と合致するものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 祖母と父にやや距離を感じていた幼いみわこは、祖父と母になついていたため、祖父が亡くなった際に遺品として祖父の絵画を引き取ることにした。
- ② 祖父はみわこが生まれたことをきっかけに、それからしばらくして唐突に油絵を描くようになり、みわこも祖父の部屋に居着くようになった。
- ③ 祖父は老人ホームでも大量のちぎり絵を製作したが、母も呆れるほどすべてが山の絵であり処分しようとしていたため、みわこが引き取ることにした。
- ④ みわこは画材屋に祖父のちぎり絵を見せる際、絵の扱い方について恥ずかしさを覚えたり、ちぎり絵の出来について不安を感じたりした。
- ⑤ チラシで作られた祖父の安っぽいちぎり絵を高価に見せたい一心で、みわこは画材屋に深緑の木枠の豪華な額装を依頼し、自ら織姫と名付けた。